

草津市版地域再生計画

山田学区

まちづくりプラン



令和2年3月

山田学区まちづくり協議会
草津市

・・・ 目 次 ・・・

1. まちづくりプランの位置づけ	1
2. 山田学区の状況	2
3. 山田学区のまちづくりの経緯	10
4. 山田学区の課題	11
5. 基本方針と施策メニュー	13
6. 推進計画の進行管理	16
7. 山田学区まちづくりプラン策定の体制・経過	17

1. まちづくりプランの位置づけ

(1) まちづくりプランとは

- ・草津市版地域再生計画で掲げた課題の解決や将来ビジョンの具現化に向けて、対象学区ごとに地元でのワークショップ等で検討した事項を反映させ、具体的に取り組む施策などを取りまとめた実行計画にあたります。
- ・実効性の高い計画とするために、短期（4～5年を目安）計画とし、施策の進捗管理を行いながら必要に応じて、見直しなども行いながら、確実に施策の推進を図っていくものです。

(2) まちづくりプランの位置づけ

- ・まちづくりプランの位置づけについては、図-1に示すように上位計画として、「総合計画」および「大津市湖南都市計画区域マスタープラン」、「都市計画マスタープラン」があり、関連計画として「健幸都市基本計画」があります。
- ・これらの計画を踏まえながら、「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」のまちづくりの実現に向けた「地域再生計画」「立地適正化計画」「地域公共交通網形成計画」の3つの計画が互いに連携して取組みを推進しています。
- ・まちづくりプランは、この中の草津市版地域再生計画の方針に基づき、その他の関連計画と連携しながら、具体的な実行計画を示すものです。

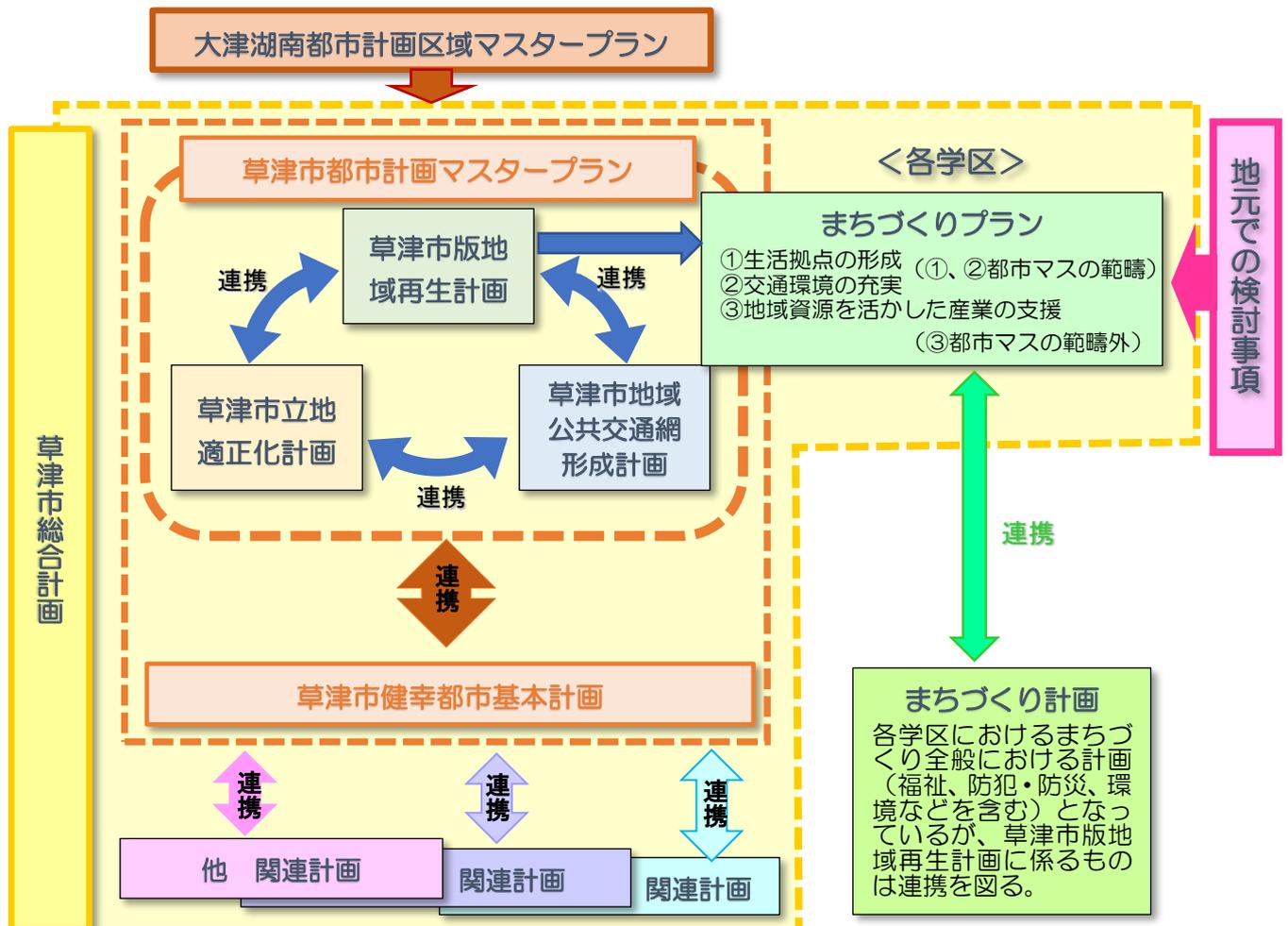


図-1. まちづくりプランの位置づけ

2. 山田学区の状況

(1) エリア・人口・高齢化率の状況

① エリア

・表-1 に示すように、山田学区は面積 595ha（市全体面積の約 12.3%）で、8 割以上が市街化調整区域となっています。図-2 は山田学区の位置を示しています。

表-1. 山田学区の面積割合（市街化区域と市街化調整区域）

	市街化区域		市街化調整区域		合計面積 (ha)
	面積 (ha)	割合	面積 (ha)	割合	
市全体	1,911	39.6%	2,911	60.4%	4,822
山田学区	90	15.2%	504	84.8%	595

※面積は琵琶湖の面積は除いたものとしております。

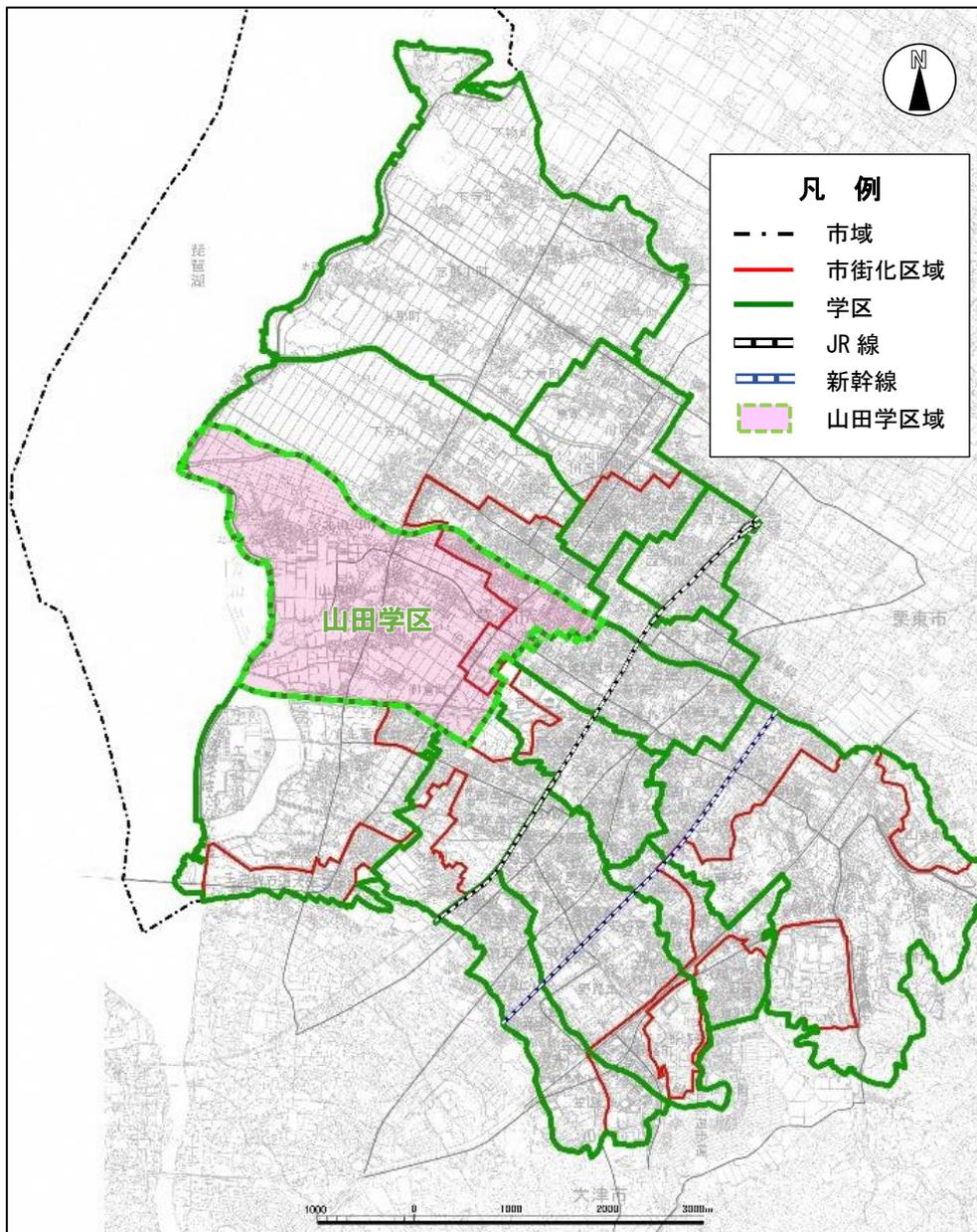


図-2. 山田学区の位置図

②人口

- ・表-2 に示すように、山田学区では既に人口減少が進んでおり、平成 22 年から平成 27 年の 5 年間で、学区全体では約 500 人、学区内市街化調整区域では約 200 人減少しています。その後も減少が進むと予測されており、平成 27 年の人口は学区全体で約 7,600 人、学区内市街化調整区域では約 4,300 人で、令和 22 年に学区全体で約 4,900 人、学区内市街化調整区域では約 2,800 人となり 3 割以上減少することが見込まれています。
- ・平成 27 年から令和 22 年の人口減少率を比較すると、市街化調整区域全体では 8.2% の減少率である一方、山田学区の市街化調整区域では 34.2% の減少率であることから、市街化調整区域全体と比較しても、人口減少がより一層進むと予測されます。

表-2. 人口の現状と将来予測（平成 22 年、平成 27 年、令和 22 年）

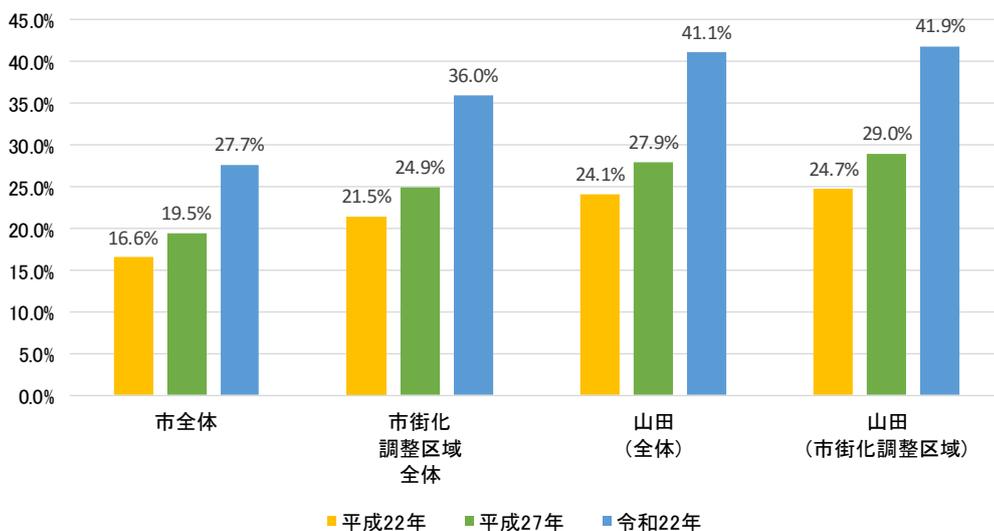
（数字の表記は千人単位としているため、実際の数値とは誤差が生じる）

	平成 22 年	平成 27 年		令和 22 年	
	人口（千人） (A)	人口（千人） (B)	増減率 (B/A)	人口（千人） (C)	増減率 (C/B)
市全体	130.9	137.2	4.8%	145.1	5.7%
市街化調整区域全体	25.0	26.5	6.0%	24.3	▲8.2%
山田学区（全体）	8.1	7.6	▲6.1%	4.9	▲36.1%
山田学区（市街化調整区域）	4.5	4.3	▲4.6%	2.8	▲34.2%

出典：平成 22 年、平成 27 年は国勢調査、令和 22 年は立地適正化計画基礎調査による推計結果データの積み上げ

③高齢化率

- ・グラフ-1 に示すように、山田学区の高齢化率は平成 22 年から平成 27 年の 5 年間で、学区全体では約 3.8 ポイント、学区内市街化調整区域では約 4.3 ポイントそれぞれ上昇し、平成 27 年は 27.9% と 29.0% になりました。その後も高齢化が進むことが予測されており、令和 22 年には学区全体、学区内市街化調整区域どちらも 40% を超えることが見込まれています。
- ・市街化調整区域全体と比較すると平成 27 年の状況で 4.1 ポイント高齢化率が高くなっています。



グラフ-1. 高齢化率の現状と将来予測（平成 22 年、平成 27 年、令和 22 年）

出典：平成 22 年、平成 27 年は国勢調査、令和 22 年は立地適正化計画基礎調査による推計結果データの積み上げ

(2) 生活利便施設の状況 (草津市版地域再生計画の再掲)

- 生活利便施設は都市機能施設のうち、国土交通省の「都市構造の評価に関するハンドブック」において生活サービス施設としている、医療施設・高齢者福祉施設・商業施設の3施設を対象としました。

対象施設	定義
医療施設	病院・診療所で内科または外科を有する施設
高齢者福祉施設	通所系施設、訪問系施設、小規模多機能施設
商業施設	1,000㎡以上の大型店舗

- 徒歩圏人口カバー率は、国土交通省の「都市構造の評価に関するハンドブック」において、徒歩圏を一般的な徒歩圏である800m（バス停は誘致距離を考慮し300m）としており、対象施設の位置を中心とした徒歩圏内に存在する人口の総人口に占める割合としています。
- なお、徒歩圏人口カバー率は、町内会別ではなく町丁ごとの整理としており、人口については平成22年国勢調査データを使用しています。

①医療施設

- 図-3に示すように、山田学区における医療施設は、1箇所のみですが、隣接する学区にある徒歩圏内の医療施設は4箇所あり、徒歩圏人口カバー率は学区の市街化区域は100%となっていますが、市街化調整区域では51.9%で、市内で3番目に低い状況となっています。特に、市街地中心部から離れた北山田町では、徒歩圏人口カバー率は50%未満となっています。

施設名称	住所	診療科目
北山田診療所	草津市北山田町 245-1	内科、消化器科、循環器科、小児科

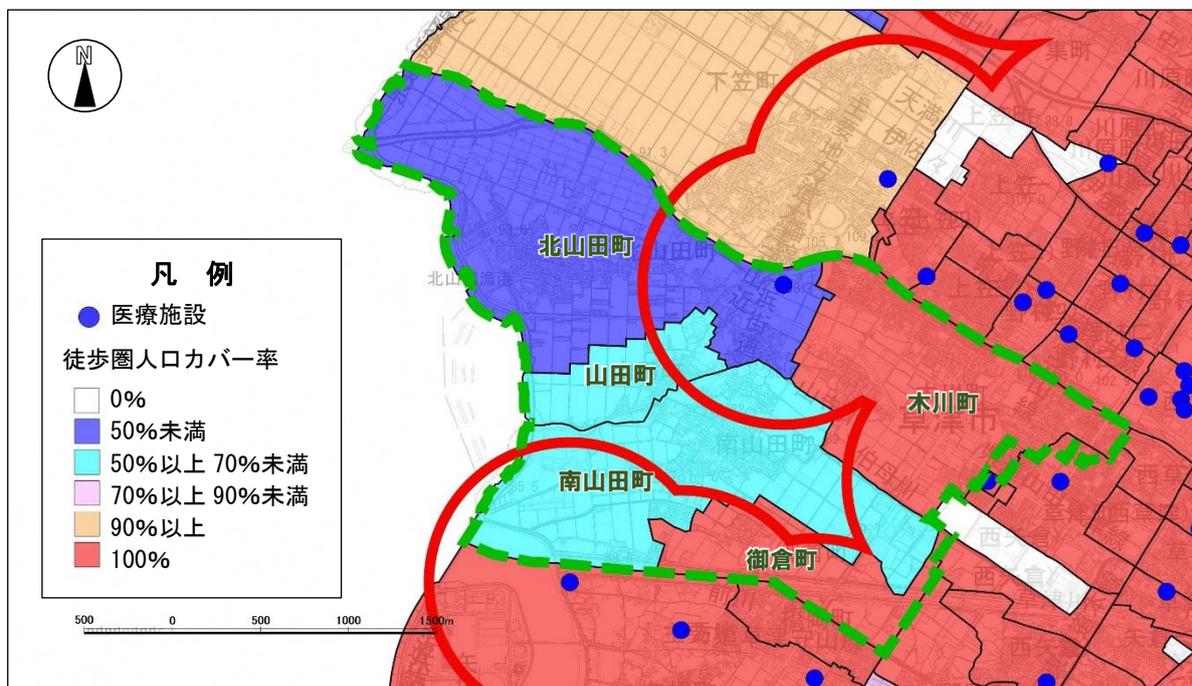


図-3. 徒歩圏人口カバー率 医療施設（データ整備年次 平成26年）

②高齢者福祉施設

- ・ 図-4 に示すように、山田学区における高齢者福祉施設は、通所系が 6 箇所、多機能系が 1 箇所あり、徒歩圏人口カバー率は 100% となっています。さらに、平成 29 年に特別養護老人ホームがオープンしています。

施設名称		住所
通所系	通所介護事務所やじろべえのハウス	草津市木川町 1607
	デイサービスセンターめくもり	草津市北山田町 866
	デイサービスセンターほんわか	草津市木川町 890-5
	デイサービスセンターにこやか、はつらつ	草津市木川町 865-12
	デイサービスセンターめろん	草津市御倉町 707
多機能系	小規模多機能型居宅介護事務所こころね	草津市南山田町 960-5

※ は現在運営されておりませんので徒歩圏人口カバー率に影響する可能性があります。

平成 29 年オープンの施設

施設名称		住所
特別養護老人ホーム	特別養護老人ホーム えんゆうの郷	草津市南山田町 761

※平成 29 年オープンのため下記の図-4 には反映しておりません。

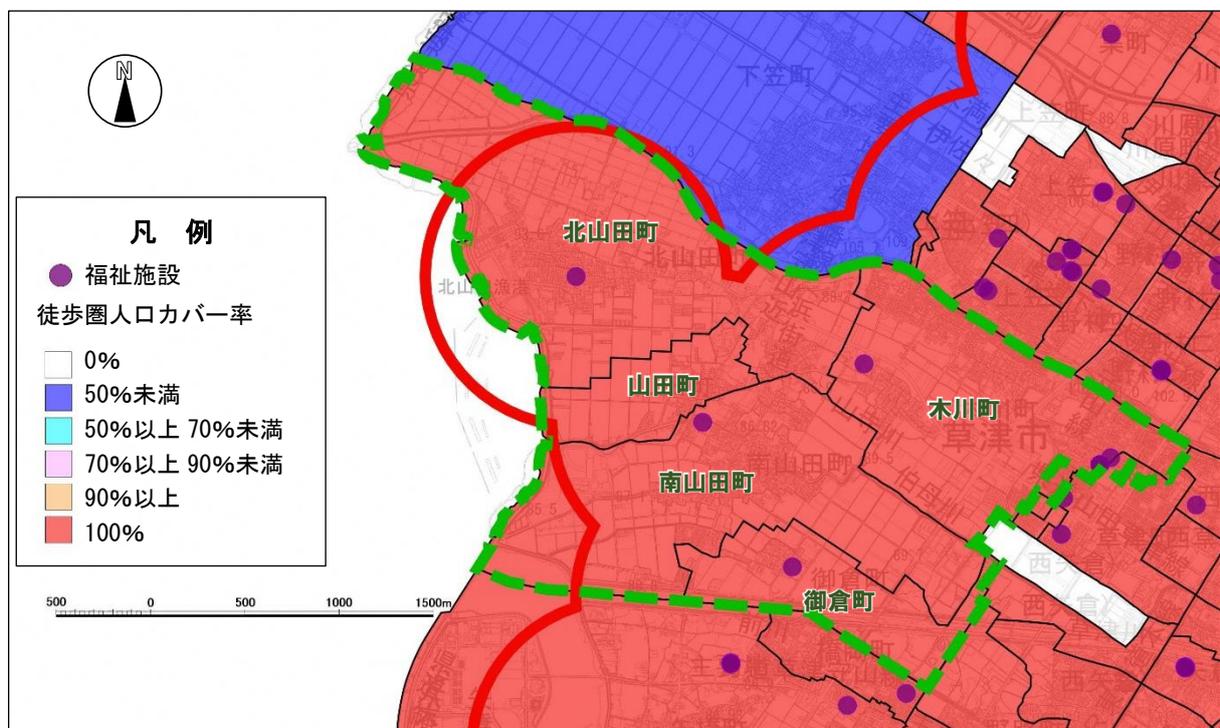


図-4. 徒歩圏人口カバー率 高齢者福祉施設
(データ整備年次 公共介護施設 平成 27 年 民間介護施設 平成 28 年)

③商業施設

- ・図-5 に示すように、山田学区における 1,000 m²以上の商業施設は 5 箇所ありますが、市街地中心部に近い木川町の南東側に施設が固まって立地しているため、徒歩圏人口カバー率は、学区の市街化区域は 87.3% となっていますが、市街化調整区域では 19.2% で、特に北山田町、山田町、御倉町では徒歩圏内に 1,000 m²以上の商業施設が存在しない状況となっています。

施設名称	住所
ホームセンターコーナン草津店	草津市木川町 389
J.JTOWN kinokawa (ドン・キホーテ草津店)	草津市木川町 311-1
ヒマラヤ草津店	草津市木川町 90-1
ケーズデンキ草津本店	草津市木川町 302-1
サンミュージックハイパーブックス草津	草津市木川町 72

- ※ は現在、中古車販売店や娯楽施設に変わっており山田学区の大規模商業施設は更に少なくなっております。

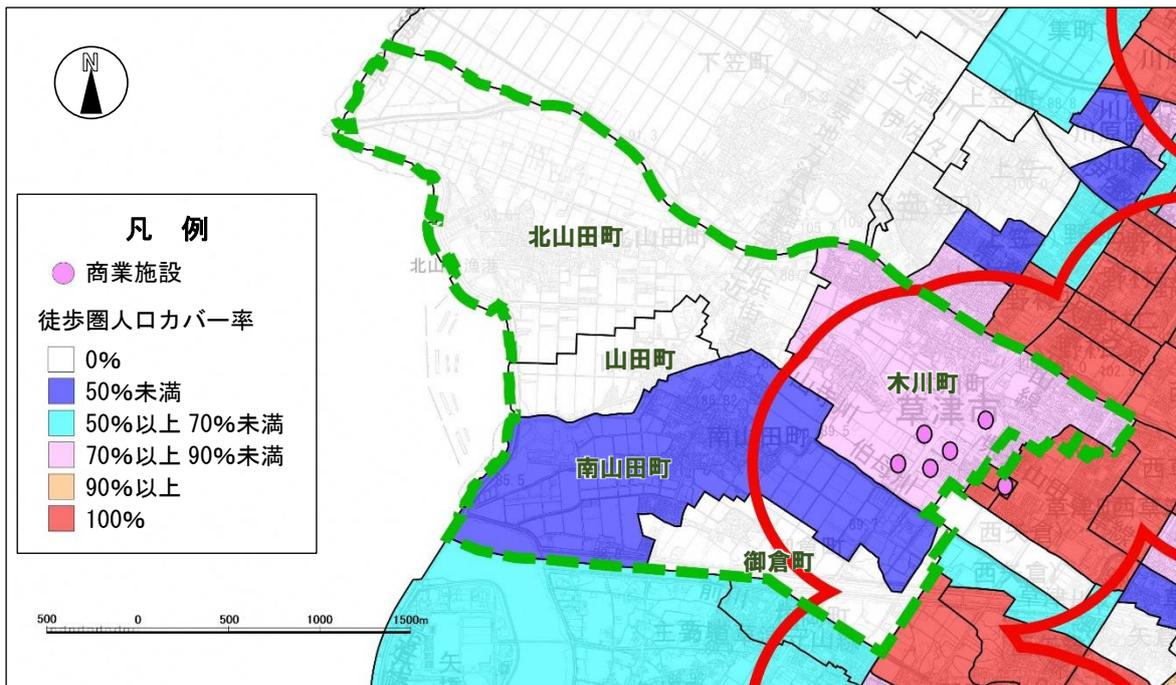


図-5. 徒歩圏人口カバー率 商業施設 (データ整備年次 平成 29 年)

(3) 公共交通の状況

- ・ 図-6 に示すように、山田学区における基幹的公共交通*の徒歩圏人口カバー率は学区の市街化区域では6.5%、市街化調整区域では34.7%で、市内の平均を下回る状況となっています。路線バスが浜街道を運行していることから、南山田町は70%以上80%未満の徒歩圏人口カバー率であるのに対し、浜街道から遠い地域の北山田町、山田町、木川町、御倉町の徒歩圏人口カバー率は60%未満となっています。

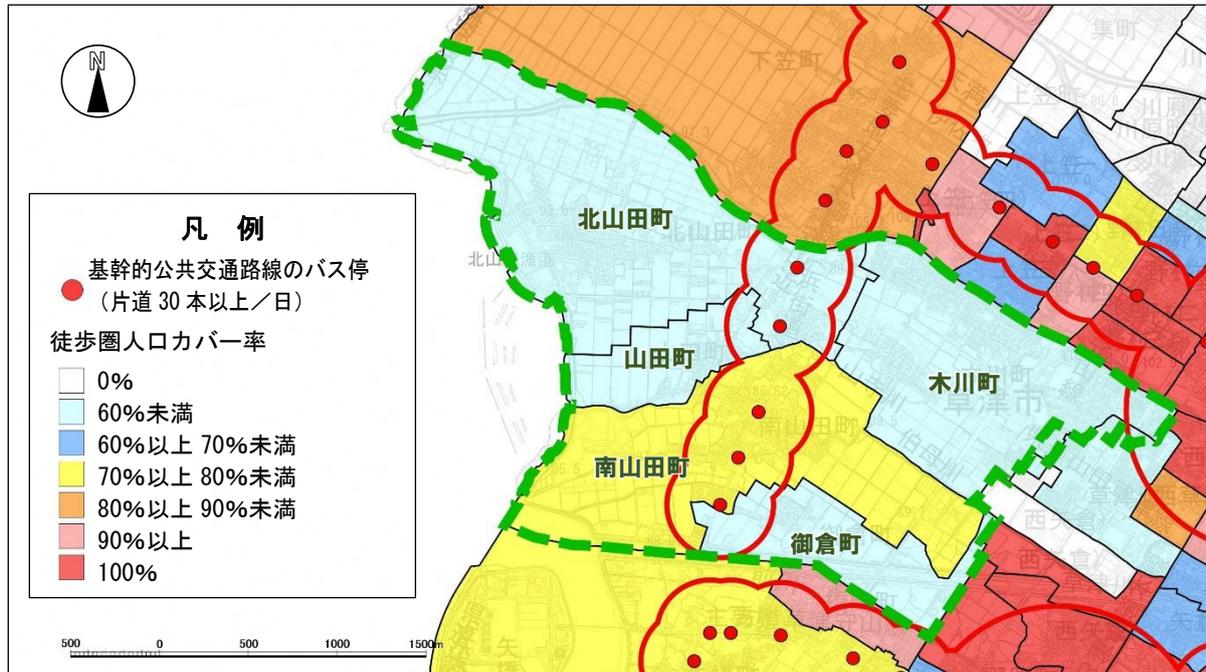


図-6. 徒歩圏人口カバー率 公共交通 (データ整備年次 平成22年)

* 基幹的公共交通は1日に片道30本以上の運行頻度のバスとしています。

(4) 地域資源の状況

《観光》

- 山田学区には、旧草津川の跡地を活用した「草津川跡地公園」が「ai 彩ひろば」として整備されており、「農と人の共生」というテーマのもと、市民活動の場となるにぎわい活動棟やスクールガーデン、広場等があります。

そのほか、ガーデニング用品の販売やグランピング・バーベキューサイトを運営する「GREEN LOFT THE PARK」や、農園カフェ「ストロベリーファクトリー」など、集客力の高い魅力的な商業施設整備が進められています。

また、定期的にマルシェ等のイベントが開催されており、市内外から多くの方が訪れておられます。



にぎわい活動棟



スクールガーデン



公園マルシェの様子

《農水産業》

- 山田学区では、近畿最大級のハウス団地による軟弱野菜の栽培が盛んで、水菜、大根、ネギなどは県内でも主力の生産地となっています。京都などの大都市との近接性を活かし、古くから京漬物を代表する壬生菜、日野菜、大根、かぶらなどの多くも、草津産の野菜で支えてきた歴史があります。現在、草津市ではいくつもの農業組合や個人野菜栽培者が集まって団地を形成し、近畿最大級の施設野菜産地として様々な旬の野菜を出荷しています。近年では、「草津メロン」や「愛彩菜」、「琵琶湖元気アスパラ」などが、草津ブランドとして認証されています。



北山田の近畿最大級のハウス団地

- 北山田漁港では、毎年「草津水産まつり（2019年28回目）」が開催されており、湖魚のつくだ煮や鮎ずし、草津ホンモロコ天ぷらなどの地域の食材販売の他、ニジマスのかみ取り、漁港から漁船に乗ってニゴロブナの稚魚放流体験、魚つり大会などが行われ、多くの方が琵琶湖の恵みに触れることのできるイベントとなっています。



北山田漁港「草津水産まつり」

・山田学区には図-7、表-3 が示すような観光・農水産業の地域資源があります。

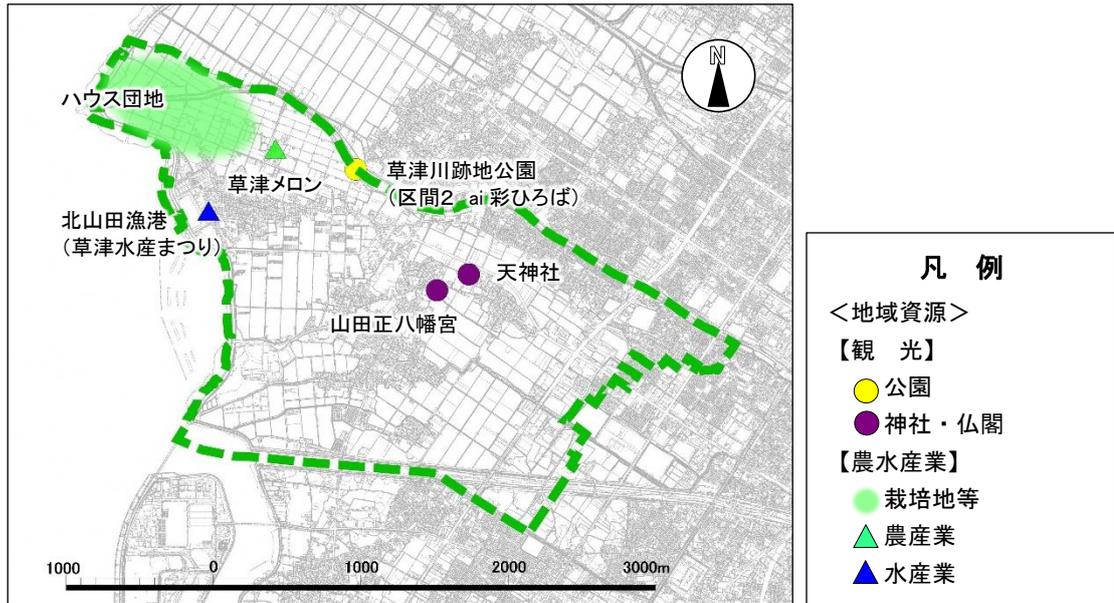


図-7. 山田学区の地域資源分布図 (主なもの)

表-3. 山田学区の地域資源

地域資源			所在地	
区分	名称	概要		
観光	公園	草津川跡地公園 区間 2(ai 彩ひろば)	旧草津川の跡地を活用した「草津川跡地公園」が「ai 彩ひろば」として整備されている。	北山田町 3268 番地 1
		湖岸緑地	琵琶湖周辺の自然保全やレクリエーション利用増進を図るために整備された都市公園。	北山田町
	神社・仏閣等	最明寺	境内には高さ2.8mの五重層塔がある。塔身の笠の軒反りが大きい鎌倉時代の様相を有している。	木川町
		天神社	推古天皇の時代に、膳所城の門を神門として移設したと伝えられる。	木川町
		山田正八幡宮	祭神を応神天皇とし、白鳳四年勧請と伝えられる。	北山田町
		木川薬師堂	西遊寺の飛地の小堂薬師堂には重要文化財の木造薬師如来坐像と木造毘沙門天立像が安置されている。	木川町
		大宮若松神社の古墳	琵琶湖辺の要所を制圧していた首長の墓として、5世紀後半頃に築造されたと考えられる。	南山田町
近代山田港(記念碑)	港跡近くに開設に尽力した杉江善右衛門の記念碑が建つ。	山田町		
農水産業	農業栽培	ハウス団地	見渡す限りのビニールハウス群は近代農業のシンボルであり、草津八大名所の一つとして数えられている。	北山田町
		草津メロン	昭和57年から栽培が始まった草津メロンは、30年を超える栽培技術の蓄積により、高い糖度をもつメロンとなっている。	北山田町
	水産業	北山田漁港	草津市内に2つある漁港のうちの一つ。毎年開催される草津水産まつりは、多くの人で賑わいを見せている。	北山田町 3130

3. 山田学区のまちづくりの経緯

①まちづくり計画【まちづくり協議会】

- ・山田学区では、平成24年3月24日に「山田学区まちづくり協議会」を設立しました。協議会では、地域住民や各種団体等の協力と協調のもとに、多様化していく地域課題を自らの地域で解決し、住み良いまちづくりに取り組むための行動指針として、まちづくり計画を策定しました。地域の将来像実現に向けて、市や地域の各種団体と協働し、地域再生法などの活用を図りながら「活気あるまちづくり」の実現を目指しています。

地域の将来像 (めざす姿)	～ 笑顔のまち 住みよいまち やまだ ～
まちづくりの基本方針	① 安全・安心で住み続けたいまちづくり
	② 元気で笑顔があふれるまちづくり
	③ ひとにやさしく、ひとが輝くまちづくり
	④ 透明性の高い民主的な協議会の運営

②【明日の山田を考える検討会議】

- ・平成30年度より「明日の山田を考える検討会議」を立ち上げ、山田学区の地域再生について生活拠点や交通環境・地域資源など様々なテーマで議論をしてきました。特に昭和60年に建設され、既に34年が経過している山田学区のまちづくりセンターの老朽化に伴う建替えに関し、今後の人口減少や高齢化社会を見据えた生活拠点としての検討を重ねてきました。令和元年度は月1回以上の会議、勉強会および視察を実施しながら、山田学区の将来を見据えて具体的な施策などについて検討を進めています。

③山田学区まちづくりプラン（本計画）

- ・「明日の山田を考える検討会議」において、草津市版地域再生計画における山田学区の将来ビジョンを切り口として、検討した具体的な施策を提示します。

4. 山田学区の課題

- ・人口増加が続く草津市の中にあって、山田学区では既に人口減少や高齢化が進んでおり、その傾向は、今後も続くと予測されています。こうした中、高齢者をはじめ地域で生活するすべての人々が、安心・快適・便利に暮らし続けることができる持続可能なまちづくりを目指し、次の3つの視点から山田学区の課題を整理します。

生活環境

- ① 山田学区は、高齢者福祉施設を除く生活利便施設の充足度が低く、特に商業施設については東側のエリアにのみ立地しており、その他のエリアには全く立地していない状況です。このことから、徒歩圏内に立地していないエリアへ、市民に身近な生活利便施設の進出を誘導することが重要です。
- ② 老朽化している山田学区のまちづくりセンターの建て替えが予定されていることから、人口減少や高齢化社会を見据え、まちづくりセンターが地域住民の生活拠点となり、かつ、憩える場所としての利活用を考慮した整備とすることが必要です。
- ③ 日常生活に欠かすことのできない商業・医療・公共交通の徒歩圏人口カバー率が低く、利便性が悪いことから、地域住民の生活拠点にはまちづくりセンターに加え、買い物、防災防犯等の機能付加の検討を行い、地域の住民の生活利便性の確保が必要です。

交通環境

- ④ 基幹的公共交通の徒歩圏人口カバー率は、山田学区全体で約35%と低い状況にあり、路線バスは浜街道を運行しているため、浜街道から離れた地域は徒歩圏人口カバー率が更に低い状況となっており、これらの地域において、公共交通が利用しやすい環境の整備が必要です。また、生活拠点への公共交通のターミナル機能（交通拠点）の整備が必要です。
- ⑤ 地域の主要道路である浜街道を安全・快適に生活できる環境にするためには、歩道等の整備が不十分なことから、歩行者等が安心して通行できる環境づくりが必要です。

地域資源

- ⑥ハウスでの軟弱野菜・草津メロンの生産や水稻栽培が地域産業の一つとなっていることから、草津メロンや愛彩菜等の付加価値化やブランド力を持つ野菜等を地域資源として、更なる地域の活性化が重要です。
- ⑦北山田漁港では、草津水産まつりが毎年開催され、多くの地域の方々に親しまれていますが、漁業自体は、高齢化等を背景に衰退が見受けられることから、今後は漁業だけにとどまらず、漁港という資源を活かし、付近の湖岸緑地などと一体的に利活用を図ることが重要です。
- ⑧山田学区の北端に草津川跡地公園区間2「a i 彩ひろば」が平成29年にオープンし賑わいを創出しておりますが、現在区間1の自転車歩行者道等の整備が進められておりますことから、草津川跡地公園の利活用を図り更なる地域の活性化が重要です。

5. 基本方針と具体的な施策メニュー

①【 山田学区の地域再生を具現化する推進計画 】

・草津市版地域再生計画における山田学区の将来ビジョンを更に具現化するため、生活拠点（商業施設等）・交通環境の充実をはじめ、観光資源・農水産資源などの地域資源をより効果的に活かすため、「明日の山田を考える検討会議」において検討を進め、施策メニューを取りまとめました。

基本方針	将来ビジョン (草津市版地域再生計画)	番号	施策	施策内容	山田学区まちづくり計画との連携 (基本方針)	施策の実施主体				短期計画(第1期)				
						市 (担当課)	民間 【役割】	地元 【役割】	県	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
Ⅰ 生活拠点の形成	生活サービス機能が不足するため、地域の生活利便性向上と地域コミュニティの維持を支える生活拠点の形成を目指します。 ・学区の中心に位置する区域に生活拠点を形成 ・生活拠点内への商業、医療施設等の誘致やアクセスの確保	①	生活サービス施設の誘導	山田学区の東側のエリアには商業施設が立地しているが、その他のエリアについては、商業施設が全く立地していない状況である。この課題を解決するため、市街化調整区域における地区計画制度を活用し、地域の利用に合致した生活を支える施設等を誘導し、生活利便性の向上を図る。	基本方針③ ひとにやさしく、ひとが輝くまちづくり	○ (都市計画課)	○ 【施設整備】			●民間企業による生活サービス施設の誘導 (市街化調整区域における地区計画制度の活用)	地区計画の策定	開発・造成など		
		②	まちづくりセンターの建替え	老朽化している山田学区まちづくりセンターの建替えが予定されていることから、人口減少や高齢化社会を見据えた地域住民の生活拠点となり、かつ、憩える場所としての利活用を考慮した整備を図る。	基本方針① 安心・安全で住み続けたいまちづくり	○ (まちづくり協働課)				★生活拠点形成に伴う施設配置・関係機関調整	地元、関係機関との協議	設計・整備など		
		③	山田学区の持続可能なまちづくりおよび生活拠点の付加機能等の検討	山田学区が今後の人口減少、少子・高齢化社会においても持続可能なまちであり続けられるよう、学区の生活拠点として必要となる機能や消防団詰め所や交番等の集約、防災防犯機能の付加を検討する。また、大学やJA草津市と連携し、地元農産物の地産地消の仕組み作り、あるいはコミュニティビジネス等の地域が主体となる取組みを実施し、持続可能な活動となるよう検討する。	基本方針① 安心・安全で住み続けたいまちづくり	○ (都市計画課) (危機管理課) (まちづくり協働課) (農林水産課)	○ 【大学・JAとの検討】	○ 【地域ニーズの集約】		★まちづくりセンターへの付加機能	大学との協議	●大学・JAとの連携の中でコミュニティビジネス等の検討	市、地元、関係機関との協議	
Ⅱ 交通環境の充実	基幹的公共交通やまめバス等の補完公共交通の充実を図り、区域内や区域とまちなかを結び利便性の高い公共交通を目指します。また、公共交通の利用がしやすい環境の整備を目指します。 ・バス、自転車等でのアクセス利便性を高める交通拠点の形成 ・生活者のニーズに応じた基幹的・補完公共交通の充実(路線の再編等) ・歩行者の安全性向上	④	生活交通の基盤整備および利便性向上	バス停留所に駐輪場や休憩場所を設けることや、生活拠点への公共交通のターミナル機能(交通拠点)の環境整備を進める。また、山田学区内の移動や「まちなか」への移動において、公共交通ネットワークを構築することで、利便性の向上を図る。	基本方針① 安心・安全で住み続けたいまちづくり	○ (都市計画課) (交通政策課)	○ 【公共交通ネットワークの充実、ターミナル機能の整備】			★バス待合施設環境整備 協議・実施	●生活拠点の形成に伴う交通ターミナル機能整備	地区計画に基づく開発・造成など		
		⑤	歩行者・自転車の安全安心事業(ユニバーサルデザインの推進)	山田学区の住民が安全で安心して生活が送れるようにするため、山田学区の基幹道路を歩行者や自転車等が安心して通行できるように整備を進める。	基本方針① 安心・安全で住み続けたいまちづくり				○	■山田学区の生活拠点となる浜街道の拡幅(滋賀県への要望)	草津川橋切下げ要望	拡幅や歩道整備要望		
Ⅲ 地域資源を活かした産業の支援	山田学区内に存在する様々な地域資源を活かし、実効性の高い地域振興を目指します。 ・地域資源(観光、農水産業)を組み合わせ地域活力向上を推進する	⑥	農作物の高付加価値化等による農業の振興	ハウスを活用した軟弱野菜や草津メロンなどの高付加価値化の推進、ブランド力の維持・向上、既存施設との連携を図るとともに、循環型農業のシステム構築を目指す。	基本方針② 元気で笑顔があふれるまちづくり	○ (農林水産課)		○ 【農産物の栽培】		★世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策、循環型農業の推進	継続実施			
		⑦	北山田漁港のリノベーション	漁港での漁業体験等の着地型観光など地域資源を活かした魅力的な空間づくりを行い、交流人口の増加を目指し地域活性化を図るため、Park-PFI制度※を活用し北山田漁港や周辺の湖岸緑地の活用を図る。 ※都市公園における民間資金を活用した新たな整備・管理手法	基本方針② 元気で笑顔があふれるまちづくり	○ (農林水産課) (商工観光労政課)	○ 【Park-PFIの企画・実施】	○ 【着地型観光の企画・運営】	○	★北山田漁港のリノベーション	課題整理	調査・検討	構想検討 Park-PFIの活用	■Park-PFIを活用するなど活性化を図る
		⑧	草津川跡地公園の利活用	令和元年11月にピワイチがナショナルサイクルルートに指定され、今後サイクリング人気が高まることが予想されていることや、区間1の自転車歩行者道が整備されることから、これまでの草津川跡地公園の利用者に加え、サイクリングを楽しむ人達に区間2「a i 彩ひろば」を訪れていただくような仕組み作りを行うなど、更なる地域の賑わいの創出を図る。	基本方針② 元気で笑顔があふれるまちづくり	○ (草津川跡地整備課) (商工観光労政課)		○ 【企画・運営】	○	★草津川跡地公園の利活用	調査・検討	事業実施		

山田学区のエリア内にある草津川跡地の未整備区間である区間3、4についても「草津川跡地利用基本構想」および「草津川跡地利用基本計画」を踏まえ、中長期的計画として推進していきます。

・施策メニューを地図上に落とし込み、図-8に示すように山田学区の地域再生をイメージ化しました。

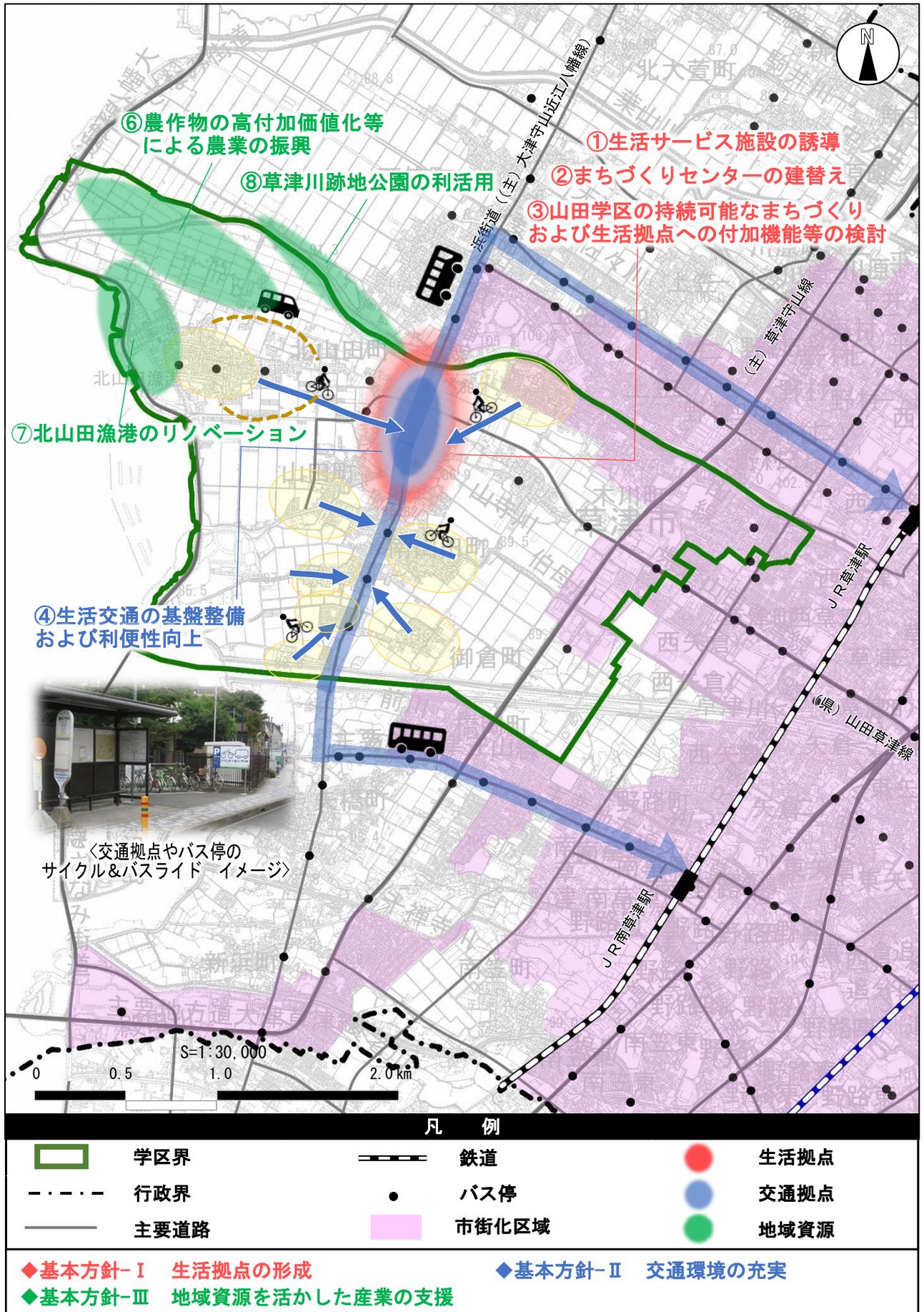


図-8. 山田学区 地域再生イメージ図

②【生活拠点のイメージ】

図-9は山田学区が今後も持続可能なまちであり続けるための生活拠点としての必要となってくる機能や施設、拠点としての更なる発展に向けて「明日の山田を考える検討会議」で検討した生活拠点のイメージです。

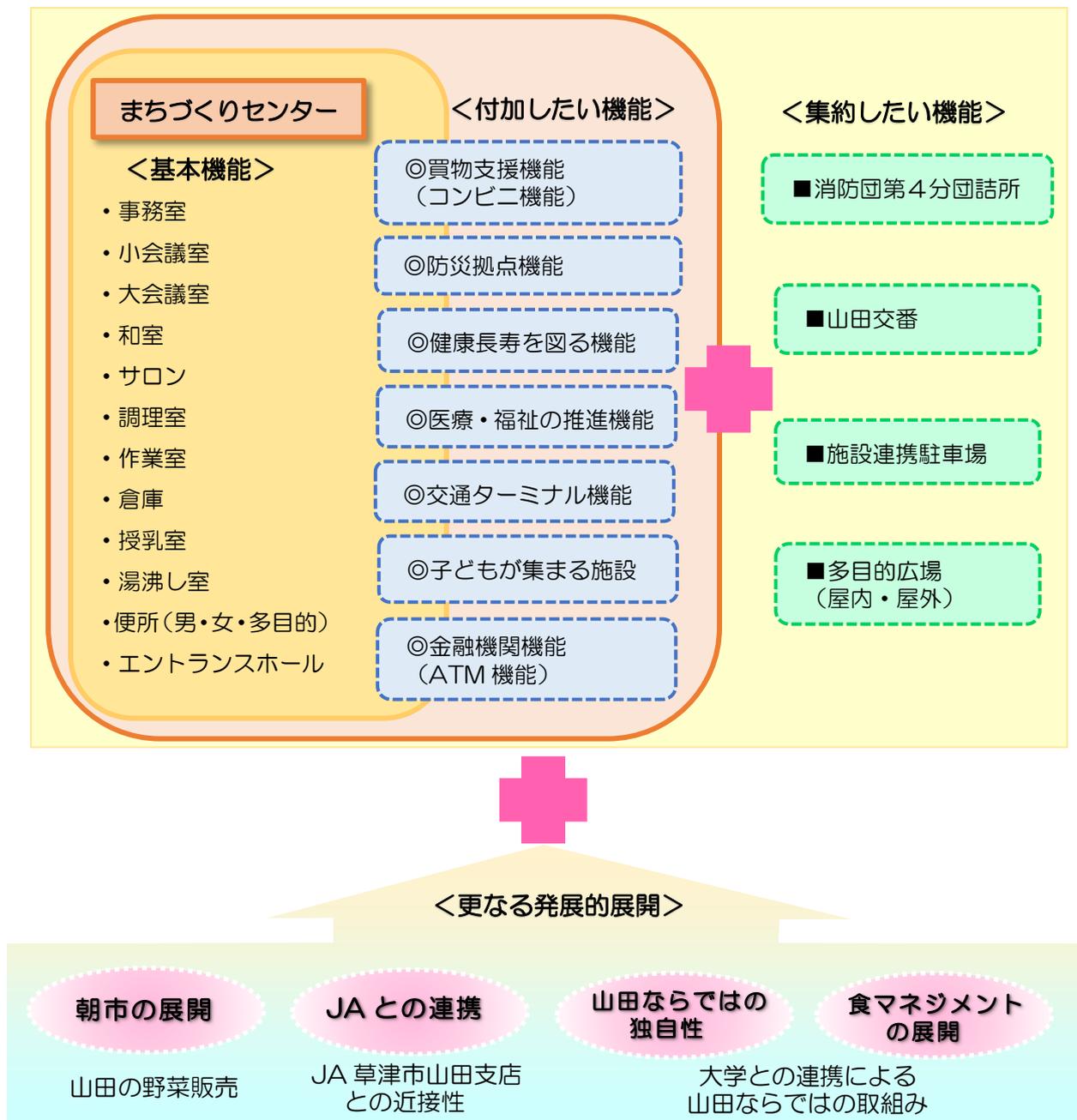


図-9. 山田学区 生活拠点のイメージ図

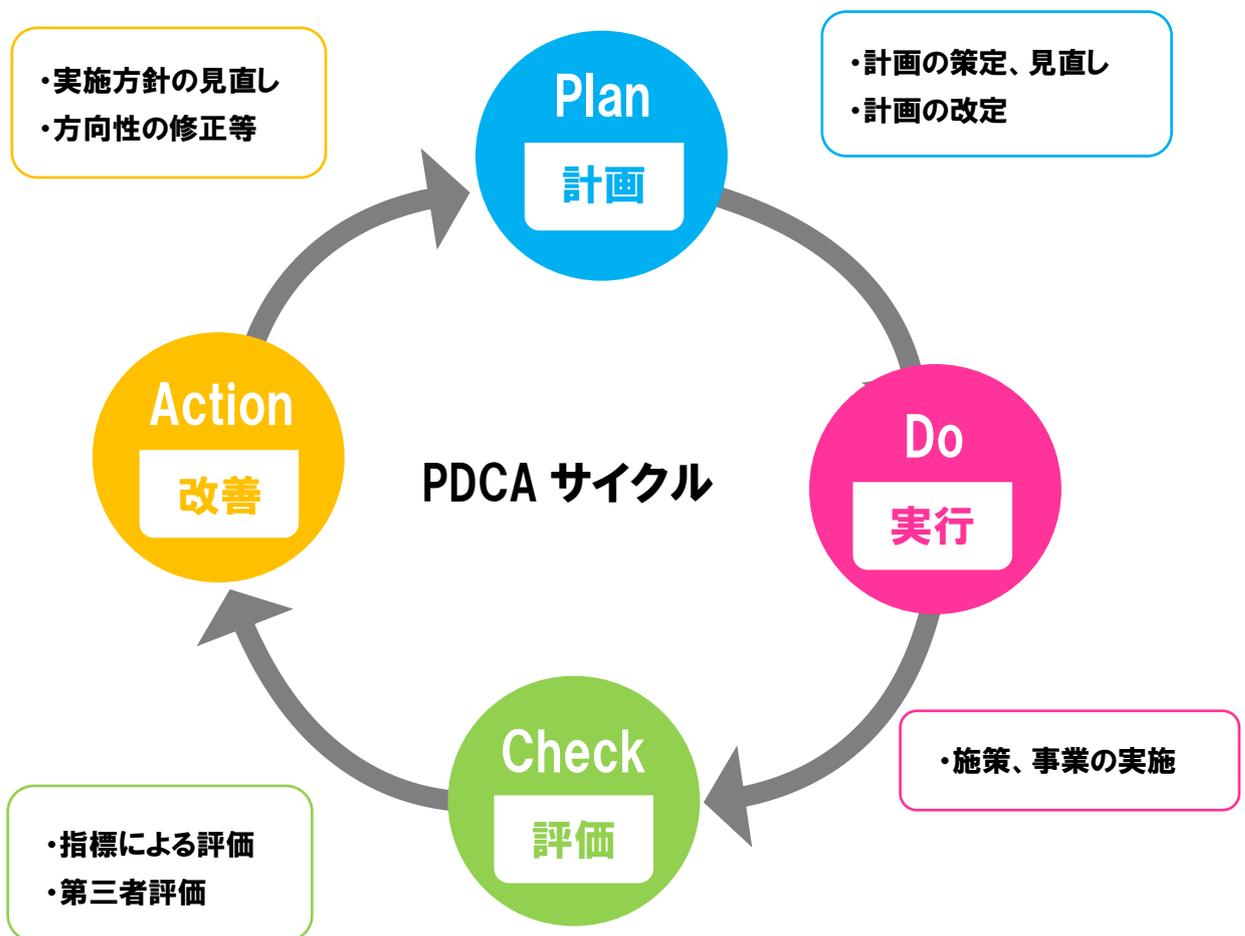
③【人材育成】

これまで山田学区の地域再生について「明日の山田を考える検討会議」において検討してきましたが、今回策定するまちづくりプランの更なる推進および生活拠点の形成に向けて、継続した議論を行うとともに、プランに基づく取り組みを地域とともに具現化していく必要があります。

まちづくりプランの具現化にあたっては、幅広い世代で担っていく中でも若い世代の活躍が期待されることから、多様な手法による議論の場を設けるとともに、有効な研修などを活用し研鑽を深め次代を担う人材育成に努めることとします。

6. 推進計画の進行管理

- ・草津市版地域再生計画に基づく山田学区まちづくりプランは、施策に応じて市が実施する事業・民間企業が実施する事業・地域と市が協働で実施する事業・要望により滋賀県で実施する事業など、多様な主体においてそれぞれの施策を進めていきます。
- ・草津市版地域再生計画の計画期間は平成30年から令和21年までの長期的な計画であるため、まちづくりプランの計画期間（5年を目安）終了を区切りとして、取組みの進捗状況や事業の効果などについての分析・評価を行い、PDCAサイクルの考え方に基づいて修正・見直し等を行います。なお、山田学区まちづくりプランについては、令和4年度より施策の評価および見直し等を行い、令和6年度からの短期計画（第2期）を作成することとします。



7. 山田学区まちづくりプラン策定の体制・経過

(1) 検討体制

・明日の山田を考える検討会議を開催し、山田学区の地域再生に係る検討を重ねました。

(2) 検討経過

	開催年月日	主な内容
第 1 回	令和元年5月 15 日	<ul style="list-style-type: none"> 山田地域における今年度の地域再生計画（まちづくりプラン）の進め方 山田地域における全人アンケートについて
第 2 回	令和元年5月 31 日	<ul style="list-style-type: none"> 今年度のスケジュール(案)について 学区拠点の形成について
第 3 回	令和元年6月 20 日	<ul style="list-style-type: none"> 今年度のスケジュール(案)の確認 学区拠点の形成についての確認 アンケートについて
第 4 回	令和元年7月 19 日	<ul style="list-style-type: none"> 交通課題、道路課題について検討
第 5 回	令和元年8月 21 日	<ul style="list-style-type: none"> 学区拠点候補地について 山田学区の農水産業振興について
先進地視察	令和元年8月 23 日	<ul style="list-style-type: none"> 和歌山県有田川町の取り組みについて（先進地視察）
勉強会	令和元年8月 31 日	<ul style="list-style-type: none"> 雲南市地域振興課（板持課長）より事例紹介 合同 WS の感想
第 6 回	令和元年9月 20 日	<ul style="list-style-type: none"> 交通課題、道路課題について検討 まちづくりプランについて 若手人材の発掘やアンケートについて
第 7 回	令和元年 10 月 18 日	<ul style="list-style-type: none"> 山田学区のまちづくりプランについて 山田ならではの取組「食を通じたまちづくり」について 住民アンケートについて
第 8 回	令和元年 11 月 19 日	<ul style="list-style-type: none"> 山田学区のまちづくりプランについて 山田ならではの取組「食を通じたまちづくり」について
第 9 回	令和元年 12 月 18 日	<ul style="list-style-type: none"> 山田の未来を考える若手メンバーによるワークショップの展開に向けて まちづくりプランの具現化に向けた流れについて
第 10 回	令和 2 年 1 月 10 日	<ul style="list-style-type: none"> 山田学区まちづくり拠点の形成方針について 山田学区のまちづくりプランについて 今後の「明日の山田を考える検討会議」等の推進方法について
第 11 回	令和 2 年 2 月 21 日	<ul style="list-style-type: none"> 「明日の山田を考える検討会議」の今後の進め方について 山田学区まちづくりプランの決定について 令和 2 年度の進め方等について 「(仮称) 山田の未来を創る 100 人若手ワークショップ」について